

Toshidai Todoroki News letter

東京都市大学 等々力中学校・高等学校

TOKYO CITY UNIVERSITY TODOROKI JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

CONTENTS

- 一歩一歩、飛躍している「藍桐祭」—— 1
- 体育行事—— 2
- 花育プロジェクト—— 4
- クラブ紹介(剣道部・書道部)—— 5
- Event Topics
- サバイバルキャンプ—— 6
- ラグビー校サマースクール—— 6
- ハーバード大学語学研修—— 6
- オックスフォード語学研修旅行—— 7
- ノブレス・オブリージュの旅—— 7
- スケジュール/募集要項/編集後記—— 8



一歩一歩、 飛躍している「藍桐祭」

校名を変更して5年目、共学部が発足して4年目となる今年の藍桐祭は、昨年にも増して伝統と進化を感じることができました。

東横学園時代から築いてきた部活動の演技発表では、伝統という太い幹に力強く新芽が育つ様が見られました。また、クラス中心で行う展示発表部門では、共学部の「Lip」「探究の時間」等で培っている能力を発揮した内容の濃い展示になっており、中学1・2年グループでは中学1年2組が、中学3年および高校1・2年グループでは中学3年1組が表彰されています。さらに、7クラスが参加した飲食部門では高校1年A組が、文化部展示発表部門では書道部が、同窓会賞には理科部がそれぞれ優秀賞に輝きました。

今年の藍桐祭は、卒業生の「応援」がいたるところで見られたのも特徴の一つです。昨年より良いものを目指して、夏休みから来てくれる卒業生の姿からは母校への思いが伝わってきました。もう、すでに来年が楽しみになっている。そんな藍桐祭でした。

教頭 古川 明美



中学校・高等学校 募集要項(抜粋)

*必ず募集要項でご確認ください。

【中学募集要項(特別選抜コース・特別進学コース)】

試験日	特別選抜コース……2/1(土)午後、2/2(日)午後、2/5(水)午前 特別進学コース……2/1(土)午前、2/2(日)午前
募集定員	特別選抜コース……84名 特別進学コース……56名
試験科目	国語・算数・理科・社会
面接	なし
配点	国語・算数(各50分、各100点) 理科・社会(合計60分、各50点)
集合時間	午前入試 8:30 午後入試 14:30
合格発表	本校ホームページ……2/1(土)・2/2(日)22:00～翌日12:00、2/5(水)20:00～翌日12:00 本校にて掲示……入試翌日9:00～12:00 ※スライド合格制度、特別奨学生制度あり

【帰国生入学試験募集要項】

試験日	第1回…平成25年12/19(木)午前 第2回…平成26年2/2(日)午前
募集定員	20名(第1回、第2回帰国生入試合計)
出願資格	平成26年3月小学校卒業見込み、または同等の学力を有する児童で、以下のいずれかに該当する者 ・現在国内に在住し、海外在住1年以上で帰国後3年以上の者 ・現在海外に在住し、平成26年4月1日までの在学期間が1年以上の者
試験科目	国語・算数・作文(日本語)・面接(本人及び保護者)または、 英語・算数・作文(日本語)・面接(本人及び保護者)
集合時間	8:30
合格発表	本校ホームページ……第1回 ホームページの掲載はありません。 第2回 2/2(日)22:00～翌日12:00 本校にて掲示……第1回 12/20(金)9:00～12:00 第2回 2/3(月)9:00～12:00

【高校推薦入試 募集要項(特別選抜コース)】

試験日	1/22(水)
募集定員	20名
出願資格	平成26年3月中学校卒業見込みの者 ①学校長の推薦する者 ②遅刻・欠席は3年間で各30日以内とする ③評定は中学3年2学期または前期(後期中間でも可)の成績を基準とする ④評定は9科に1、5科に2がないこと ⑤B推薦(併願)は東京・神奈川の生徒を除く ⑥B推薦(併願)は公立・私立ともに併願可 ⑦内申基準 A推薦(単願)→3科合計 13以上 かつ 5科合計21以上 ※英検準2級を取得している者には加点1、 B推薦(併願)→3科合計 14以上 かつ 5科合計23以上 英検2級以上を取得している者には加点2とします。
試験科目	適性検査(英語・国語・数学)(各30分)
面接	あり(グループ面接)
集合時間	8:30
合格発表	1/23(木)11:00～12:00(本校) ※合格結果通知を交付

【高校一般入試募集要項(特別選抜コース)】

試験日	2/12(水)
募集定員	50名
出願資格	平成26年3月中学校卒業見込みの者 併願優遇基準は併願推薦(B推薦)基準と同じ
試験科目	英語・国語・数学(各50分、各100点)
面接	あり(本人のみ個人面接)
集合時間	8:30
合格発表	本校ホームページ……2/12(水)20:00～2/13(木)12:00 本校にて掲示……2/13(木)11:00～12:00 ※合格結果通知を交付

※中学・高校ともに成績上位者のうちA特・B特合わせて10名～15名が特別奨学生となります。(ただし中学は特別選抜コース受験生に限る)

《11月以降の学校説明会日程》

中学校	11/4(月・振)・11/23(土・祝)・12/22(日)・1/13(月・祝) 11月は[10:00～、10:30～] 12月・1月は[10:00～、10:30～、11:00～] 要予約
高校	11/23(土・祝)・12/22(日) いずれも14:30～、15:00～ 要予約

※説明会の模様はWEBで生中継いたします。詳細は、本校ホームページをご覧ください。

都市大等々力ニュースレター
Toshidai Todoroki News letter
vol.7 2013 Nov.

編集発行：東京都市大学等々力中学校・高等学校
発行日：平成25年11月1日
〒158-0082 東京都世田谷区等々力8-10-1
TEL.03-5962-0104 FAX.03-3701-2197
<http://www.tcu-todoroki.ed.jp>

今回、体育科の行事を特集することができて嬉しく思っています。中学生は高校生の、高校生は中学生の体育行事に、いまだに知る機会がないので、いい機会になりました。体育行事において、一人ひとりが精一杯の力を発揮することはもちろんですが、行事を通してクラス、学年の絆を深めていただきたいです。これからも皆で体育行事を盛り上げていきましょう！
(小林 枝里子)

編集後記

今後のスケジュール

- 11月1日(金)
●横試(女子部)
- 11月2日(土)
●音楽鑑賞教室(共学部高1)
- 11月9日(土)
●等々力キャリアフェア(中2)
- 11月10日(日)
●横試(共学部高1・高2)
- 11月11日(月)～16日(土)
●修学旅行(女子部高2)
- 11月11日(月)～15日(金)
●修学旅行(中3)
- 11月11日(月)～13日(水)
●語学研修(女子部高1)
- 11月13日(水)～15日(金)
●語学研修(共学部高1)
- 11月15日(金)
●校外学習(女子部高3)
- 11月18日(月)・19日(火)
●ブレインター(女子部高1)
- 11月20日(水)
●スピーチコンテスト(中1・中2・高1・高2)
- 11月27日(水)
●避難訓練
- 12月6日(金)～12月10日(火)
●期末考査
- 12月12日(木)
●文楽鑑賞教室(女子部高2)
- 12月14日(土)
●都市大訪問会(高1)
- 12月20日(金)
●終業式
- 12月21日(土)～28日(土)
●冬季登校講座
- 1月5日(日)～7日(火)
●スキー教室(中2・中3希望者)
- 1月8日(水)
●始業式
- 1月28日(火)
●合唱コンクール
- 2月21日(金)
●ロードバイク(共学部)
- 3月3日(月)～6日(木)
●期末考査
- 3月14日(金)
●高校卒業式
- 3月18日(火)
●中学卒業式
- 3月20日(木)
●終業式
- 3月20日(木)～26日(水)
●春季登校講座
- 3月27日(木)～31日(月)
●春季進学合宿(共学部新高3)



都市大等々力の 体育行事

力も心も... 生徒の熱く輝く目が番多く見られるのが体育行事。授業や早朝、放課後の合間を縫って練習を重ね、クラスや個々の目標に向かって全力で取り組む生徒の姿にとても胸が熱くなります。各色の応援スタイルに個性が生まれ、学年に関係なく生懸命応援を送る姿が印象的な中学スポーツ大会。今年度初めて女子部・共学部が融合して創り上げられ、女子部の華やかさと共学部の迫力ある演技が多くの観客を魅了した体育祭。寒い条件の中、42.195km程の距離を完歩する」という強い気持ちを持った生徒が年々増加しているロードハイク。女子部ならではの盛り上がり、白熱さでゲームを作り、下級生が上級生に立ち向かう面白さのある球技大会。昨年度初めて菅平高原にて実施され、3日間を飛躍的に上達を遂げたスキー教室。以上の熱い体育行事を写真と生徒たちのコメントで紹介いたします。

歩け!歩け! ロードハイク

共学部
中・高

「困難を前にたじろがない精神の錬成」を目標に掲げたロードハイク。22km、31km、そしてフルマラソンとほぼ同じ42.195km程の3つのコースから自分で選んだコースを歩き、歩き、そしてまた歩き、ゴールである二子玉川の総合グラウンドを目指します。

今回は約31kmのBコースを歩きました。予想以上に長い道のりに途中何度も心が折れそうになりましたが、共に歩く友達と互いに励まし合いながら歩ききることができ、友情も深めることができました。来年は一番長いCコースに挑戦してみたいです。

自分はBコースの約31kmを歩いた。途中1時間くらい走ったり、休んだりして5・6時間でゴールすることができた。そこまで時間がかかったと思えなかった。長い距離を歩いた達成感がとても大きかった。

私は42.195kmのCコースを歩きました。途中、何度も「止まりたいな」と考えてしまいましたが、その度に一緒に歩いていた友達が「頑張れ!あとちょっとだよ!」と励ましてくれて、無事ゴールに着くことができました。ゴールした時の喜びは言い表せません。また、ゴールではおおいしく温かい炊き出しがあり、歩き疲れた体を癒してくれました。長い距離を歩き続けるのは大変でしたが、その後の達成感をはるかに上回ります!このロードハイクで、私は友達の大切さなど、たくさんのお話を学べました。来年もCコースに挑戦したいです。

ロードハイクによって教えられたことは大きく3つあります。1つ目は「仲間と協力し合うことの大切さ」です。ロードハイクはすごく長い距離で、一人じゃ歩けない、友達がいるからこそ歩ききれると思えました。2つ目は「計画性」です。自分がどのくらいの速さで歩けば早めにつけるのか、などを考えさせられました。3つ目は「達成感」です。ゴールした時の達成感は素晴らしいです。迎えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ロードハイクは「目標があるから頑張れる」のです。私たちが河川敷を歩く一歩一歩は小さいけれど、その一歩を積み重ねることによってそれはとても大きな一歩になるのだなと思いました。



みんなの汗が光ってる! 球技大会

女子部

女子部伝統の球技大会。クラス対抗戦なので、クラスの絆はより一層深まります。女子だと思って侮るなかれ。やるからには一番目指して競争心に火がともる。真剣勝負だからこそ、感動も大きいのです。

今回は最高学年ということで、全体を取りまとめる立場を経験し、人の上に立つことの難しさを改めて学びました。失敗もたくさんあったけれど全力で楽しむことができ、高校生活最後の最高の思い出になりました。

人数が少ないながらも、各学年がそれぞれ全力で戦い、どの競技もとても盛り上がったので楽しかったです。他学年との交流を深めるいい機会にもなりました。

年々クラスが減るにつれ、やる種目が減ってきているが、皆今ある種目を楽しそうに対決してくれたのでとてもうれしかった。来年も女子部らしい球技大会をやりたい。

上達も早い! スキー教室

中2・中3
(希望者)

大自然の中、ウィンタースポーツをとおして健康な心身を育てること、そしてSA制度によって他学年との交流をはかり、今後の学校生活にも生かしていくこと。それがスキー教室開校の狙いです。集団行動をとおして規律ある生活態度を養います。

スキー教室に行って、先輩やほかのクラスの人との交流を深めることができました。とても楽しかったです。スキー技術も向上しました。

最初は全く滑ることができなかったけれど、段々滑ることができるようになって嬉しかった。インストラクターの方の教え方も上手だった。他の学年との交流も深められてよかった。

滑ることができない人でも絶対に滑ることができるようになるし、たくさん雪に触れることができるので、普段できない経験をたくさんできるところが楽しい。来年も絶対行きたい。

学年の垣根を越えて応援! スポーツ大会

中学

中学のスポーツ大会は、クラス対抗でもあり色別対抗でもあります。「学年優勝」を目指してクラスが団結。「総合優勝」を目指して先輩・後輩が団結。集団の中で自らが果たすべき責任を全うする能力を養います。

今回のスポーツ大会で、多くのことを経験し、多くのことを学びました。「気をめかない」「あきらめない」など、これからの生活に必要なことが、改めてわかりました。

初めてのスポーツ大会で「うまくできないんじゃないか」「先輩たちの足をひっぱっちゃうんじゃないか」と心配でしたが、そんなことはありませんでした。とても疲れましたが、とても楽しいスポーツ大会でした。そしてさらに総合優勝までできたので、また来年のスポーツ大会で優勝を目指したいと思います!

優勝をつかみ取れ! 体育祭

高校

今年初めて女子部と共学部の合同開催となった高校の体育祭。最初はお互いうまくいくのか不安な様子でしたが、実行委員の熱心な取り組みと高3生の「おおいに盛り上げたい」という熱意が実り、大成功に終わりました。

とても楽しくて、真剣にスポーツに取り組んだ。またやりたいと思った。



スポーツ大会ではクラス全体がまとめることができ、よかったと思う。クラス替えしてから2・3ヶ月しか経っておらず、クラス全体がごちなかったものの、スポーツ大会ではみんなが団結することによって、クラスがかなりまとまったと思う。

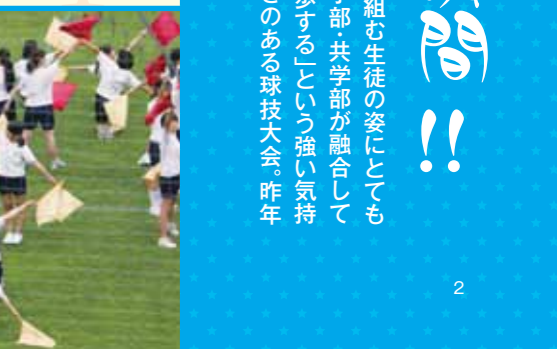
今回のスポーツ大会は優勝できなかったけれど、楽しめたのでよかったです。また、後半の競技の時は、ほとんど毎回、円陣を組んだり、自分達でクラスの応援をして士気を高めたりできたので、3年生の始めの頃よりも一体感が出てきたと思います。

今年は初めて女子部と共学部の合同の体育祭でした。どうなるか少し不安でしたが、人数が女子部よりも倍以上いるので、競技を応援しているときの各組の盛り上がりは、すばらしかったと思います!

今回は出る種目が多かったため、他の人がやっているのを見るということはありませんでしたが、一つひとつの種目で楽しむことができました。応援も盛り上がってよかった。

共学部との初の体育祭で最初はどうなるのかと思ったけれど、楽しくできました。無事に終わってよかったです。応援団も各チームとも、個性があって面白かったと思います。

自分が所属した赤組は、優勝はできなかったが「応援優勝」をとることができた。団長をはじめ、3年生の先輩方が、1年生を引っ張ってくれたおかげだと思う。今回はついていけるので精一杯だったが、来年、再来年は、自分が後輩を引っ張っていきたいと思う。



＊ | 花育プロジェクト

平成24年度卒業生の記念品として整備が進められた都市大等々力の「花育環境ガーデン」がこのほど完成しました。このガーデンは、原田校長の掲げる「綺麗な花で生徒の登下校を飾る」をコンセプトとし、正門から階段を通り抜けた場所に広がっています。ここでは、三つに仕切られたガーデンを一つずつご紹介しましょう。
(生徒活動部長 落合敏郎)

一つ目は、プレゼンテーションガーデンです。天然芝と花のスポットで構成されたガーデンは、時期に合わせて季節の花々を生徒が選び、飾っていきます。ここにはウッドデッキも設けられ、生徒、来校者の憩いの場となります。

二つ目は、グレイブアイビーゾーンです。オリーブやサルズベリが植えられ、国旗・校旗の掲揚ポールを、整備されたグレイブアイビーが囲んでいます。

三つ目は、ストロベリーガーデンです。ここには生徒が苺の苗を植えて育てていきます。朝、水やりをする生徒の姿があり、綺麗な白い花が咲く頃が楽しみです。また、ブルーベリーも植えられています。

この他にも、ゆずの木を植えるなど、生徒の花育活動は活発に展開していきます。

なお、この整備は、体育館横にある縦長の敷地を日本庭園風にリニューアルし、正門にある五島慶太翁の胸像を綺麗な花で飾るなどの事業も同時に進められました。

＊ | プレゼンテーションガーデン



校庭脇の通路では季節の花々が皆をお迎え。

＊ | グレイブアイビーゾーン



様々な種類の濃い緑が心を和ませてくれます。

＊ | ストロベリーガーデン



環境委員が皆で植えた苺の苗。気づくとすでに赤い実が。



体育館横のスペースは、砂利や瓦を敷いて日本庭園風に。



本ゆずの木を植えました。黄色い実の成るのが楽しみです。



クラブ紹介

CLUB ACTIVITIES

文化祭を機に、高3が引退を迎える部活動があります。ひと足先に引退した各部活動も含め、彼らの3年間あるいは6年間の積み重ねは、きっと何にも代えがたい宝物となることでしょう。このコーナーでは、毎回2つのクラブを紹介します。今回は剣道部と書道部について、それぞれ顧問の先生方に熱い思いを語っていただきました。

■各部活動の夏合宿

軽音楽部	8月 1日～ 4日(3泊4日)	妙高高原
中学サッカー部	8月 1日～ 3日(2泊3日)	茨城県神栖市
剣道部	8月 1日～ 3日(2泊3日)	新潟県上越市
中学(男子)バスケットボール部	8月 1日～ 4日(3泊4日)	長野県松本市
バドミントン部	8月 2日～ 4日(2泊3日)	群馬県利根郡
弓道部	8月 2日～ 5日(3泊4日)	長野県飯山市
歴史鉄道研究部	8月 4日～ 6日(2泊3日)	栃木県・日光、福島県・会津若松
高校サッカー部	8月 4日～ 6日(2泊3日)	群馬県吾妻郡
理科部	8月 4日～ 6日(2泊3日)	長野県飯山市
高校(男子)バスケットボール部	8月 4日～ 7日(3泊4日)	長野県松本市
舞チア部	8月 5日～ 8日(3泊4日)	新潟県南魚沼市
吹奏楽部	8月 5日～ 9日(4泊5日)	本校
バレーボール部	8月 8日～11日(3泊4日)	群馬県桐生市
軟式野球部	8月 8日～12日(4泊5日)	千葉県長生郡
陸上競技部	8月10日～14日(4泊5日)	新潟県妙高市
硬式テニス部	8月11日～15日(4泊5日)	福島県南会津郡
硬式野球部	8月12日～16日(4泊5日)	長野県飯山市
フットサル部	8月12日～16日(4泊5日)	長野県飯山市
バトン部	8月14日～17日(3泊4日)	育英会八ヶ岳山荘
コーラス部	8月16日～18日(2泊3日)	山梨県南都留郡
演劇部	8月17日～19日(2泊3日)	育英会八ヶ岳山荘

中高 剣道部

顧問 小林 枝里子 田中 智恵子

「剣心克己」。これは私が剣道を始めた時に最初に教えてもらった言葉だ。本校の剣道部が使用している手拭いにもその言葉を入れてある。また、剣道には「剣は心なり。心正しければ剣まじしからず、剣を学ばんと欲すれば先ず心より学ぶべし」という言葉がある。「心が正しければ正しい技、正剣になり、そうでなければ邪剣。」まじした稽古となる。だから剣を志した者は先ず心を正しくせよ。」ということである。

私は、剣道をとおして本当に学ばべきものは勝利するための技術ではないと思っている。相手を敬い相手に感謝する心、自分が稽古できる環境に感謝する心、自分を守ってくれる防具や竹刀を大切に扱う心。常に学ぶ姿勢で、困難な状況や苦しい場面でもそこを乗り越える弱い自分に克つ心。そういうことを剣道から学んでもらいたいと思っている。

本校の剣道部は、中学生、高校生合わせて9人。他校に比べると人数は少ない方である。また技術レベルも様々なため、同じ練習内容が難しいというときもある。人数が少ないというのは、部活動に対するモチベーションを下げやすい要因の一つだ。二時期、多くの部員が稽古に対して消極的になり、部内の活気がなくなってきた時があった。もう剣道部はためかもしれないかと思った。

しかし、部員皆で話し合いを行い、その時の正直な気持ちや意見を共有した。その中で「少ない人数でも皆で声をかけあつて稽古しよう」「とにかく声を出そう」「しっかりと目標を立てて取り組もう」などの前向きな意見が出た。それからの生徒たちは、個人の目標や課題を部屋の目につくところに貼り、課題を確認してから稽古をするようになった。また、練習中に「ファイトー!!」などの仲間への声かけもできるようになってきた。少しずつ、本当に少しずつだが活気が出てきたのである。生徒たちは皆、弱気になつた自分に打ち克つことができたのだ。

中高 書道部

顧問 宮内 伸人 佐野 守正 藤波 浩 深井 友紀子



1年生では大会で入賞者も出ました。

「剣心克己」弱い自分に打ち克ち、何事にも感謝の気持ちを持つ心。この心を、剣道を通じて生徒たちに学んでほしい。

(小林 枝里子)

「先生、昨日泣きそうになつたんだよ。」朝一番に訪ねて来た部員が小さな声で言った。ある行事の看板を書道部が担当した時のことだ。行事が終了するや否やビリビリに破いて片付けられたと云う。私は、「頼まれた物を届けた瞬間、それは相手の物になるんだよ。必要な物でも使い終わったら要らない。当たり前のことだよ。」と伝えた。「だけどもさ...」涙ぐむその生徒の表情は忘れられない。

書道部の活動内容は作品制作の為の研鑽が主であるが、行事への協力があれば事に応じて制作することもある。その時々、要望に最善を尽くす。行事の制作は部員の応用力が試される時だ。文字の基本形を調べ、他の紙に何度も練習しながら緊張が高まっていく。



藍桐祭 合作中の高1森達郎くん



書道部員集合写真

本番の瞬間は自分たちで決めるのだ。結果、納得の仕上がりに程遠いものとなると、それが今の実力と知るまでだ。この繰り返して本番に強くなっていく。努力は見えにくく、心を込めても伝えられないことの方が多い。そんな時、練習量が足りないと感じる。これが部員たちの素直な心の日常だ。

日本の暮らしの中に書は多く残っている。いや、残そうと大切にしてきた人が居るのだ。本校も文化のバトンを受け継ぎ、丁寧に歩んでいると思う。部員たちは行事の中で必要とされるものから多くを学び、成長していると感じる。遠くから自分の文字を見た時のこそ、よい感覚が未来の書道家を育てている。昨日の自分が頑張ったという証を得て、自信へと繋がっていくのだ。だから、ビリビリに破かれた自分の文字に衝撃が走るのだろう。こちらでも当たり前前の感情だ。心が詰まっている分、涙に変わるのだ。文字と真つ直ぐに向き合う仲間たちは誠実で仲が良い。

昨年度、藍桐祭での「同窓会賞」は部員たちの誇りとなった。

涙ぐんだあの部員は今、後輩の涙をしっかりと受け止めている。潤う瞳が輝く書道部だ。

(深井 友紀子)

9/13~9/19 **オックスフォード語学研修旅行 (高2)**

語学研修旅行で最も印象に残ったものは…

街並み

■ロンドンの国道沿いの景色がきれいで、とても印象に残った。また、ロンドン市街の雰囲気などイギリス独特であり、日本との違いがよく分かった。

大英博物館

■大英博物館にある数々の展示は興味深いものばかりで、特に印象に残っている。さらに、行動する中でRASに何回か質問することができ、英語によるコミュニケーションで新しいことを知ることができたのが嬉しかった。

ナショナルギャラリー

■ナショナルギャラリーの作品に感動しました。今まで絵などを見ても、それほど感動することはなかったけれど、間近で本物の作品を見ると細かいところまでこだわって描いているのがわかり、すごく感動しました。

日本文化についてのプレゼンテーション

■今回の研修で一番心配していたのがプレゼンでした。でも、チームの皆さんしっかり台本を頭に入れていたし、RASの皆さんもヨーヨーなどで一緒に遊んでくれてとても盛り上がったので、よかったです。

RAsとの交流

■初めは自分の英語が通じるか心配だったけれど、RASの方が「ゆっくりでもいいから話してみよう」と言って下さったので、たくさんお話しすることができました。今回の研修旅行で、もっと英語を勉強したいと思うようになりました。

■RASの皆さんが私たちのために企画して下さった様々なアクティビティは、とても貴重な体験だったと思います。ネイティブの発音を生で聞くことのできる貴重な経験だったので、英語に対する興味がより深まりました。

※RAS (Residential Assistants) … 研修をサポートするオックスフォード大学ハートフォード・カレッジの学生たち



オックスフォード大学「ため息の橋」(1組)



ハートフォード・カレッジの中庭(2組)



バッキンガム宮殿(3組)

7/29~7/31 **サバイバルキャンプ (中1・中3)**

自然に囲まれ、緑の多い所で学年の皆とSAの先輩と過ごした3日間学べたことは、なんでも皆で協力し合ってやることの大切さです。これからの学校生活にも活かしていきたいと思っています。(中学1年)

今回のサバイバルキャンプでは、今まで育ててきた菜園の野菜を食事のときに食べ、テントの設営などをし、自然の中での生活を楽しむことができた。普段の暮らしでは体験できないことができてよかった。(中学1年)

僕は、このサバイバルキャンプで、今まで当たり前のようにあったもののありがたさがとても分かりました。また、料理を作ってくれる母にも感謝したいと思います。(中学1年)

中1の後輩と仲良くなれたし、暑かったけれどとても楽しかった。自分たちでレクリエーションを考えて、実行する難しさがよくわかった。うまくできないこともあったけれど、とてもやりがいを感じた。(中学3年)

とても充実した2泊3日だった。今の中1が2年後にSAにたくさん立候補してくれたら、うれしく思う。(中学3年)

普段と違う環境の中で戸惑うこともあったけれど、今回のキャンプで学べたことがたくさんあった。来年もまた行きたいと思った。(中学3年)



最終日に中1・中3そろって集合写真。クラス、学年を越えて協力できたようです。



SAの指導の下、テント設営。



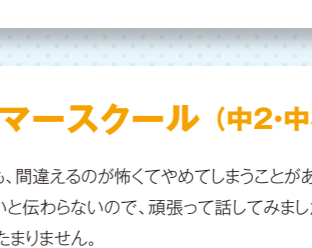
沢登りの風景。足元が不安定の中、がんばりました。



食事作り。自分達のは自分達で。



滝つぼまで行って、楽しみました。



スイカ割り。しっかり割れたかな？

8/1~8/12 **ラグビー校サマースクール (中2・中3)**

以前は、外国人に話しかけたくても、間違えるのが怖くてやめてしまうことがありました。でもイギリスでは、英語で話さないと伝わらないので、頑張って話してみました。自信がついたし、うまく伝わった嬉しさはたまりません。

慣れない海外での生活は大変なこともあったけれど、以前より英語の会話を理解できるようになったし、今回の経験をこれからの英語の勉強に活かして行きたいと思う。研修旅行でまたラグビー校に行くのが待ち遠しい。



ケンブリッジ通足でのバンティング

「ラグビーフットボール」が生まれたコートにて

7/31~8/13 **ハーバード大学語学研修 (高校)**

アメリカに着いた日。どこへ行っても英語。初めは呪文のように聞こえ不安でいっぱいだったけれど、そんな不安は消えて飛んでしまう楽しい日々が続きました。アメリカに行って印象に残ったことはたくさんありますが、その中でも毎日ハーバード大学のキャンパスに通ったことが楽しかったです。午前中は授業を受け午後はアクティビティという一日。ホストファミリーの家から自分たちだけで登校することが少し不安だったので、アメリカの学校で友達に会うと日本で普段何気なく会うより安心感を覚え、友達のありがたさを感じました。また、ホストファミリーの家に泊まることは大きな経験になりました。ホストファミリーと毎晩会話をしたり一緒に遊んだりすることで距離が縮まっていくことが実感でき、英語で会話ができていると思うと何とも言えない喜びを感じました。そして、日が経つにつれてアメリカが楽しくなり、もう少しいたいと思うようになりました。それほどこの2週間は楽しく、長いようで短かった忘れられない日々になりました。最後に、私のホストファミリーからもらった忘れられない言葉。"This house is your house in Boston. (この家はボストンでの君の家だよ)" 私はとても感動し、胸に熱いものがこみあげてくるのを感じました。この語学研修に参加して本当によかったです。ありがとうございました。(高校1年)

ポスターで活躍されている本郷雅直さんに講演をしていただきました。



ゴレンスキー教授の講義終了後に記念撮影。



連載 **ノブレス・オブリージュの旅** ⑦

校長 原田 豊

前回、ナイジェリアのストリートチルドレンに関する新聞の特集記事を紹介し、十二歳の少年のやるせない現実を心寄せた時、まずは与えられた時間や機会を決して無駄にすることなく生きることを実践しなければならぬと書きました。しかし、一方でこんなことも考えます。二十年ほど前になるでしょうか、「子どもの権利条約」というものを国連が起草して日本も批准しました。あのナイジェリアや南スーダンの子供たちのように、世界には悲惨な状況の中で暮らす子供たちがいて、毎日過酷な労働を強いられ、虐待を受けたり、満足に病院にも行けず、落とさなくともいい命が簡単に犠牲になってしまうという事は事実です。そういう子供たちを救うという趣旨には異論はありません。しかし、その当時の日本の子供たちは、従来の卒業式や入学式を意味のない、単なる「儀礼」に過ぎないとしてボイコットし、生徒たちの合意のもとに行われる卒業記念祭とか入学を祝う会として実行するなどということが連鎖して起こりました。マスコミもこうした子供たちの無思慮な行為を大きく取り上げて、むしろ自主性とか民主的とかいう言葉を用いて子供たちを英雄気取りにさせていたというのが、当時の私の印象です。生徒諸君はどう考えるでしょうか。

ナイジェリアの子供たちと日本の子供たちと果たしてどちらが幸福かなどというものは、飢餓や内乱の恐怖を知らない意識家の戯言で、私はこの日本の豊かさを大切にしたいと思っています。しかし、私たちは、欠乏や我慢の中でしか手に入れることができないものがあるのだということ、しかもそれらは人間の精神の基本をなすようなとても大事なものののだということ、そういうことをしっかり理解しておかなければならないと思います。そのうえで、私たちは意識的な努力によってこれらの困難を克服していくしかなく、それが、豊かな国の豊かな時代に育った生徒諸君(私たち大人も含めて)には求められているのだと思っています。

ナイジェリアのストリートチルドレンは悲惨であり、救ってあげたい。そのためにできることはどんなことなのだろうか、真剣に考えるべき問題であり

ナイジェリアの子供たちと日本の子供たちと果たしてどちらが幸福かなどというものは、飢餓や内乱の恐怖を知らない意識家の戯言で、私はこの日本の豊かさを大切にしたいと思っています。しかし、私たちは、欠乏や我慢の中でしか手に入れることができないものがあるのだということ、しかもそれらは人間の精神の基本をなすようなとても大事なものののだということ、そういうことをしっかり理解しておかなければならないと思います。そのうえで、私たちは意識的な努力によってこれらの困難を克服していくしかなく、それが、豊かな国の豊かな時代に育った生徒諸君(私たち大人も含めて)には求められているのだと思っています。